

# 英語自学自習プログラムの開発： Seiryō English Multiathlonの導入

田村恭子・木村哲夫・野中辰也  
ユーエン エイドリアン・スワレス アーマンド

Developing an English Self-Study Program:  
An Introduction to the Seiryō English Multiathlon

Kyoko Tamura, Tetsuo Kimura, Tatsuya Nonaka,  
Adrian Cohen and Armand Suarez

## 1. はじめに

日本の学校英語教育にはさまざまな問題点があるが、その一つとして、学習者に英語の運用能力をつけさせるための「量」が絶対的に不足しているということを指摘する声は多い。中学から高校を経て、大学まで英語の学習をしても、その総量はたかが知れている。英語の力をつけるには、教室での授業に加えて学習者個人が多量の英語に接することが必要なのは、ある程度英語ができるようになった人ならば実感していることであろう。そうした経緯からか、近年では中学・高校レベルや通信教育等でリーディングマラソンやリスニングマラソンといった企画が生まれ、その効果測定についてもいくつか報告がなされている<sup>2)</sup>。

さらに、英語担当教員を悩ませる問題として「個人差」の大きさもあげられる。中学・高校・大学を問わず、多くの学校では1クラスの学習者の学力レベル・学習タイプの差が大きいことは珍しくない。そのような学習者を相手に共通教材を使用して、どのレベルの学生に指導の照準をあわせようかと苦勞する。仮に能力別のクラス編成をしても、学習タイプの差を解消するまでには至らないのが現状ではないだろうか。

以上の二点、「量の確保」と「個人差への対応」を保証し、様々な学習者に英語力をつけさせるため、本学では1996年度に英語自学自習プログラムSEM (Seiryō English Multiathlon) を開発、スタートさせ、二年目の1997年度にプログラムを一応の軌道に載せるに至った。本稿では、1997年度のプログラムの概要を紹介して、自学自習プログラムの基本設計を伝えることとする。

## 2. プログラムの概略

SEMとは、学習者自らがさまざまな教材の中から自分の好みやレベルにあったものを選び出し、各自のペースで学習し、その学習量をマラソンの走行距離に見立てて記録する自学自習プログラムである。このプログラムは、本学の国際文化学科の1年生(1997年度は117名)全員およ

び2年生の一部を対象として通年で行われており<sup>3)</sup>、現在、下記の5つのコースが用意されている：

- リーディングコース：サイドリーダー・CD-ROM教材を使用したのリーディング
- リスニングコース：テープ教材を使用したのリスニング
- ライティングコース：身近な話題を中心にしたエッセイライティング
- TOEICコース：CD-ROM教材を使用したのTOEIC検定対策
- Costelloコース：コンピュータ上のロールプレイングアドベンチャーゲームを使用したのリーディング・ライティング
- ビデオコース：洋画ビデオ・レーザーディスクを使用したのリスニング

学習者は上記のコースの中から好きなものをいくつでも選択することができる。マラソンに見立てて学習記録をとることと、多彩なメニューを用意していることから、本プログラムを triathlon を超えた multiathlon と命名してある。

このプログラムでは、課外の時間を利用して、学生が自主的に学習に臨むことを目的としている。学生は、語学演習室あるいは図書館で自分の好み（およびレベル）に合った教材を選び、各自のペースで学習を進める。学習の結果は、コース別のレポートシート（参考資料1）に記録し、そのフォームを語学演習室に提出する。提出されたレポートの情報は、一部コンピュータに入力され、学生の個別カウンセリング（後述）の参考資料となる。

一部コンピュータを利用した教材を用意しているため、語学演習室が設置されている。演習室は3室あり、各部屋にコンピュータ24台が装備され、うち1室にはビデオデッキ・レーザーディスクプレーヤー各12台が装備されている。

このプログラムで利用できる教材として、語学演習室（および付属図書館）には次のようなソフトが用意されている<sup>4)</sup>：

- リーディングコース：サイドリーダー185タイトル（付属図書館に配置）  
CD-ROM教材約100タイトル
- リスニングコース：連続ドラマオーディオテープ教材52レッスン
- ライティングコース：身近な話題を中心にした16の題材シート
- TOEICコース：CD-ROM教材24セット（語学演習室1室分）
- Costelloコース：コンピュータ上のロールプレイングゲーム（語学演習室1室分）
- ビデオコース：洋画ビデオ・レーザーディスク約250タイトル（付属図書館に配置）

### 3. プログラムの詳細

本セクションでは各コースの目的、学習手順、および指導上の留意点をまとめる。

#### 3. 1. リーディングコース

自分の好みとレベルにあった読み物を多量に読むことにより、英語を読む力を付けることが第1の目的である。また、読んだ本の要約を英語で書くことにより、英語を書く力をつけることも副次的目的として考えている。

このコースでは、サイドリーダー・CD-ROM教材で英文を読み、そのサマリーや感想を英語

あるいは日本語で書くことをタスクとしている。学習にあたっては、自分の選んだ教材とレポートシートを使用する。

このコースの学習にあたっては、次のことに留意するように指導している：

(1) 自分のレベルにあったものを選ぶこと。

学生は、どうしても自分のレベルよりも高いものを読みたがるので、注意が必要である。やさしすぎるものを読むのも意味はないが、難かしすぎるものだとどうしても辞書を利用しないといけなくなり、本コースの目的である多読を妨げることになってしまう。難しいものを1冊読むよりも、やさしいものをたくさん読んだ方が効果的であることを強調している。

(2) 精読よりも多読をこころがけること。

少し読んでみて気に入らないとき、難しすぎる（やさしすぎる）ときは、無理せず他の本に変えること。また、よくわからないところや、つまらなさそうなところは、読み飛ばしてもよいから、なるべく速く1冊を読み切ることをすすめている。興味のわくものを読むことを重要視し、なるべく母国語で行う趣味の読書に感覚を近づけるのが理想的だと考えてこのように指導している。

(3) 辞書なしでの読書になれること。

わからない単語が出てきても、なるべく辞書は引かないことや、挿し絵や写真を参考にし、文脈から単語の意味を想像しながら読み進むことをすすめている。多読を第1の目的としているので、辞書の使用は極力制限するとともに、未知語を文脈から推測する力をつけるように指導している。

(4) 概要把握につとめること。

全文を日本語に訳さないと内容を理解した気にならない学生がいる。英語を読んで内容を理解することと、それを日本語に訳すことは別の作業であり、多読を目的とした本コースでは内容理解に重点をおいて指導している。一文ずつ日本語に訳したりせず、だいたいどんな話なのか、想像力をうまく働かせながら読むことをすすめている。

### 3. 2. リスニングコース

テープ教材を使って自然な速さで話される英語を多量に聞くことにより、英語を聞く力をつけることが第1の目的である。また、聞いたものに関する英語の質問にこたえることで、内容理解力をつけることも副次的目的として考えている。

このコースでは、1レッスン3～5分程度のラジオドラマ形式のテープを聴き、タスクシート（参考資料2）にある設問に答えるほか、テープの内容のサマリーや感想を英語あるいは日本語で書くことをタスクとしている。学習にあたっては、自分の教材の吹き込まれたオーディオテープとタスクシート、レポートシートの3点を使用する。

このコースの学習にあたっては、次のことに留意するように指導している：

(1) キーワードの事前確認を行うこと。

テープの中で使われるいくつかの語句の意味が分かるかどうかあらかじめタスクシートの上で確認すること。テープをかける前に、いくつかの語句の意味が分かっているかどうか確

認して、不確かな場合はこの段階で辞書を使って調べておくように指導している。

- (2) テープをかけながら、タスクシートに書いてあるイントロダクションを読み、これから聞くストーリーのあらすじをとらえておくこと。

ストーリーの大意をつかまえやすく、また想像力を働かせやすくするために、イントロダクションをよく理解させておく。必要があれば辞書を使って誤解の内容にしておくように指導している。紙の上にかいてある英文をテープの速さで理解できるようになるのが目標なので、スピードについていけない場合は、何度もやり直すように指導している。また、テープをかけたままテープの後について自分で声に出し読んでみることも効果的な学習方法として奨励している。

- (3) 細部よりも大意把握を目指した聞き取りに集中すること。

どうしても学生は聞き取れない部分があると、そこに意識を集中させてしまい、大意をつかみそこねてしまいがちである。細部にこだわらず大意をつかみながら、なるべくたくさん英文を聞くように指導している。

- (4) 同じストーリーを何度も聞き直すこと。

ストーリーを一度で理解できないときは、テープを戻して何回も繰り返して聞くことを奨励している。ただし、目標はあくまで大意把握であり、細部の聞き取りまでは要求していない。

### 3. 3. ライティングコース

ライティングコースの目的は、身近な題材についてまとまった量の英文を書くことにより、自分の考えを英語で表現するという力をつけることである。

このコースでは、身近な話題についての英文エッセイを書くことをタスクとしている。学習にあたっては、題材およびサンプルの書かれたタスクシート（参考資料2）とレポートシートを使用する。

このコースの学習にあたっては、次のことに留意するように指導している：

- (1) 読者を意識した英文を書くこと。

学生が長文を書く際には、思いついたことを列挙しておわりという文章が少なくない。たとえば「私は犬が嫌いです。猫が好きです」といった文が列挙され、読者が感じる「なぜ犬が嫌いなのか」「犬が嫌いになるようなエピソードがあったのか」「なぜ猫が好きなのか」といった質問に答えることなく文章が終わることが多いのである。これでは読者にフラストレーションを与えるばかりで、よい文章とはいえないであろう。

そこで、英文を書く際に無秩序にメッセージを羅列するのではなく、「自分がこう書いたら、それを読んだ人はどのようなことを聞き返すだろうかを考え、その質問に答える形で次の文を書くようにして、仮想の読者とキャッチボールをするつもりで書くように」といった助言を与えている。

- (2) 積極的に辞書を使用すること。

リーディングコースでは辞書の使用を制限したが、このコースでは積極的な辞書活用を奨

励している。ただし、辞書の例文をよく読むこと、特に和英辞書の語彙をそのまま使用せず、英和辞書で用法を確認の上使用すること、などに留意するよう指導している。

(3) ある程度の日本語の使用を認めること。

これは辞書の活用を奨励するのとは一見相反すると思われるかもしれない。しかし、あまりに頻繁に辞書を引かねばならないため英文を書こうとする意欲が萎えてしまうことを防ぎ、単語レベルで多少の日本語が混じっても、まとまった量の英文を書くことに慣れさせようとする配慮からの指導であり、慣れるにしたがって全文を日本語なしで書くようになっていくようである。

(4) 最初から英語で文章を書き進めていくようにすること。

日本語による文章を作成し、その原稿を英訳しようとする学生がいる。これは2つの点で問題がある。往々にして日本語原稿自体の構成がまずいという点と、原稿の日本語に固執して不自然な英文になってしまうという点である。こうした点を解決するため、日本語で全体の文章を作成したものを一文ずつ英訳するのではなく、最初から英語で文章を書き進めていくように指導している。

なお、このコースでは学生の書いた英文の添削は特に行わない。これは、添削に割く時間的余裕がないことと、英語力が十分とはいえない一部の学習者には添削の有無が英文の質や量の向上に影響しないとする研究結果（Hatori et al. (1990)、Kanatani et al. (1993)）をふまえてのことである。ただし、個別のカウンセリングでの添削等は各教員の裁量にまかせてある。

### 3. 4. TOEICコース

CD-ROM教材を利用して、英語の基礎力をつけることを目的にするとともに、TOEICを受験する学生の準備に役立てることがこのコースの目的である。問題形式の教材をとくことで、自分の英語の弱点を発見し、重要事項を整理していくことで、英語の基礎力をつけることを目指している。

このコースでは、CD-ROM教材を使用して検定対策問題を解き、重要表現などをレポートにまとめることをタスクとしている。学習にあたっては、コンピュータとCD-ROM教材、レポートシートを使用する。

このコースの学習にあたっては、次のことに留意するよう指導している：

(1) まず最初にTOEICの形式について学習すること。

問題形式を知らずに学習を始めると、形式を理解することに気を取られ、英語の学習そのものがおろそかになるため、各パートの形式をよく理解してから学習を始めるよう指導している。

(2) 形式が理解できたら模擬試験を受け現在の力をTOEICの推定得点で知ること。

教材選択の判断材料としてだけでなく、得点の上昇を目標に学習することができるので、早い時期に自分の英語力をTOEICの推定得点で知っておくことを推奨している。これにより、半年後や1年後に学習の効果を自分で確かめることも大きな利点である。

- (3) CD-ROM教材は、何度繰り返して学習しても構わないこと。

リーディング・コースの多読のような量を重視した学習ではないので、何度も繰り返し同じセクションを学習することで、間違いや弱点をなくし、英語の基礎力をしっかりつけるように指導している。

- (4) 重量事項や自分の弱点を発見したら、メモを取ること。

英語の基礎力をつけ、自分の弱点を発見することがこのコースの目的なので、CD-ROM教材を使ってコンピュータに向かって学習しているときに発見した重要事項や自分の弱点は、コンピュータを離れた後でも復習ができるようにメモをとることを奨励した。

### 3. 5. Costelloコース

コンピュータのネットワーク上でロールプレイング・ゲームを使い、英語のリーディング力とライティング力をつけることが第1の目的である。海外のネットワーク利用者と直接会話をする機会もあるため、学生の動機づけを高めることを副次的目的として設定している。

CostelloとはMUD (Multi-User Domain) ゲームと呼ばれる種類のロールプレイングゲームである。プレイヤー (学習者) は、各自がゲームの主人公となり、コンピュータ上の仮想現実世界で、次々に現れるキャラクターの出す文字情報による指示にしたがって、冒険を進めていくこととなる。このコースではゲームで英語の指示を読み、その指示への応答を英語で書くことと、毎回のゲームの進行状況をレポートに記録することをタスクとしている。学習にあたっては、コンピュータとレポートシートを使用する。

このコースの学習にあたっては、次のことに留意するように指導している：

- (1) ゲーム上の世界についてその場所場所の説明文章を読みながら探検すること。  
わからない言葉に出会ったら、ゲームに組み込まれている英英辞典を参考にして、全て英語で理解しながらゲームを進めていかなければならない。これにより、英語でそのゲームの世界を創造していくこととなる。
- (2) ゲームの世界で1つの「QUEST」という目的に向かって行動すること。  
そのQUESTを終わらせるためには、ゲーム内のキャラクターの英語を理解して、その通りに動かなければならない。
- (3) できるだけ英語で考え、行動すること。  
ゲームの世界で、日本はもちろん、世界中のプレイヤー達と英語でリアルタイムに会話をする。そのためには、読みとった英文を逐一日本語に翻訳するのではなく、できるだけ英語で考え、行動するようにする。

### 3. 6. ビデオコース

日本語の字幕に頼らず、英語だけで映画を多量に見ることにより、自然な速さの口語英語にできるだけ耳を慣れさせることが第1の目的である。見た映画について感想文と推薦を書くことにより英語を書く力をつけることや、英語を聞きながら必要に応じて英語の字幕をスキャンし理解することにより速読の練習をすること、映画を通して異文化について学ぶこと、などが副次的目的として考えられている。

このコースでは、洋画を見て、その感想や推薦文、聞き取れた重要表現などを英語（もしくは日本語）でレポートに記録することをタスクとしている。学習にあたっては、ビデオあるいはレーザーディスクとそのプレーヤー、レポートシートを使用する。

このコースの学習にあたっては、次のことに留意するように指導している：

(1) 場面から大意をとらえることに集中すること。

どうしてもわからない場合に、巻き戻してもう一度その場面を見るなり、字幕をゆっくり読むために一時停止をすることをすすめている。しかし、自然な速さの英語に少しでも慣れるために、一つ一つの単語がわからなくても、完全に聞き取れなかった細部を気にせず、意味は画像を参考にし推定しながら進むことを強調している。

(2) 映画に現れる口語英語や文化の違いに注目すること。

ある程度聞き慣れたら、映画に現れる日常的な生活場面を観察することによって、それぞれの場面に適している口語表現や、異文化の習慣などについてメモにとることをすすめている。それらを感想と一緒にレポートに記録し、必要に応じて指導教員と話し合うようにしている。

(3) 映画の感想文や推薦文の記録に力を入れて、自分の気持ちを英語で表すようにすること。

映画の内容をまとめて書くことよりも、見た映画の感想や、他人にどう推薦するかしないかを書くことの方に挑戦することをすすめている。その際には、なるべく自分の気持ちや意見を英語で表現する練習をすることを強調している。

## 4. プログラムの運用

### 4. 1. 学習量の計測

先に述べたように、プログラムの各コースとも学習量をマラソンのマイル数に換算し、個々の学生の学習量をマラソンの走行距離（マイル）に見立てている。コース毎のマイル数は概ね下記のとおりである：

リーディングコース：サイドリーダーで1500wordsの英文を読むごとに1マイル。（各教材には選択の基準のためにマイル数が記入してある）

CD-ROM教材にはサイドリーダー同様のカウントをしているものと、語数での距離換算は難しいため30分の学習で1マイルとしているものがある。

リスニングコース：テープの1レッスン（問題解答を含めた学習に15～30分程度かかる1ユニット）で1マイル

ライティングコース：英文100words書くごとに1マイル。

TOEICコース：30分の学習で1マイル。

Costelloコース：30分の学習で1マイル。プレーヤーのレベルが上がるごとにプラス5マイル。

ビデオコース：映画を1タイトル観るごとに4マイル。さらに英文レポートを100 words書くごとにプラス1マイル。

現段階では、一部先行研究（金谷ほか（1991）など）を参考としてはいるものの、マイル数算定に確たる根拠があるわけではない。おおむね学習時間30分が1マイルになるようにしているものの、コースによってばらつきがあり、共通の尺度としてマイル数を用いることに問題はある。この点に関しては今後の検討課題である。

学生は、半期で50マイル、通年で100マイルの走破を要求され、この学習成果はいくつかの英語科目の評価の一部（15～40％）に組み込まれている。この点では、自学自習とはいえ、ある程度強制的に学習させることになっている。1997年度の1年生に限って言えば、年間到達マイル数は最高430マイル、平均123マイルとなった。この数値を見る限り、必要最低限のレベルをクリアしただけでなく、自分の意志で要求以上の学習量をこなした学生が少なくないといえよう。大まかな度数分布は図1に示したとおりである。

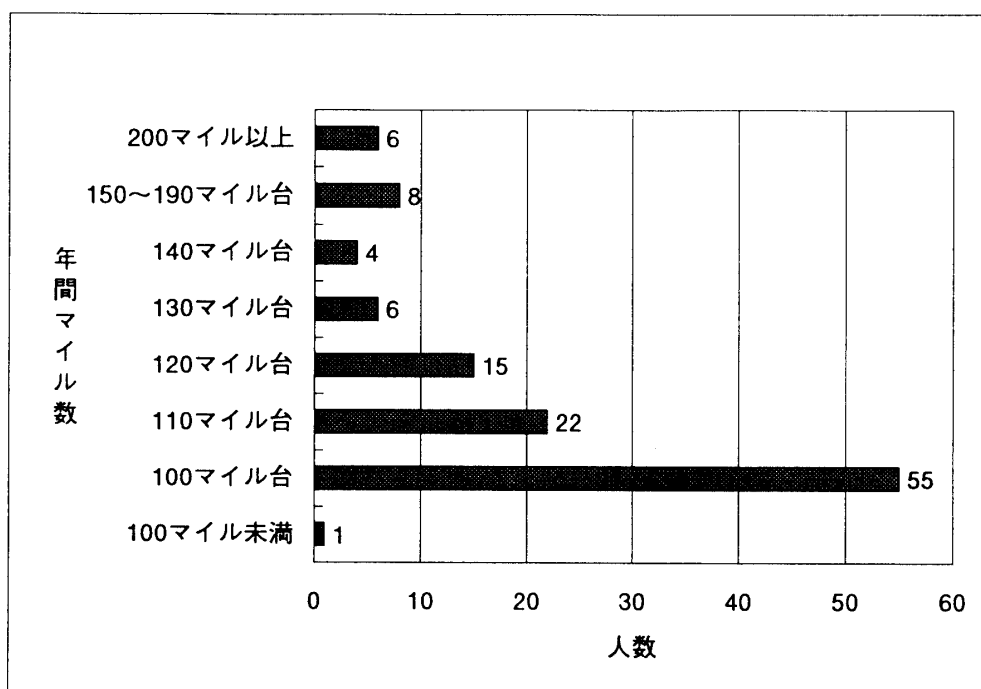


図1：学習量度数分布（1997年度1年生117名）

#### 4. 2. プログラムの導入とカウンセリング

学生へのプログラムの導入（コースの紹介とプログラム全体の利用方法）は、全学生が受講している英語の授業の一部を割いて行っている。まず、リーディング、リスニング、ライティングの各コースについての導入を4月に行い、コンピュータやワープロの操作などが要求されるTOEIC、Costello、ビデオの各コースの導入は10月に行った。

学生がプログラムの利用に慣れ始めた6月頃から、各自の自主的な英語学習を援助するために、1～2カ月に1回の割合でカウンセリングを設定している。カウンセリングでは、学生が提出したSEM課題を教員の手を介して返す機会を設けると同時に、個々の学生と面談し、学習上の助言や指導をする仕組みになっている。

学生は、入学直後に行われた英語学力テストの成績により、能力別に5つの同人数のグループに分けられ、それぞれのグループにカウンセラーとして英語担当教員が1名ずつつく。カウンセリングは前後期各3回程度行われ、学生は毎回指定の期間中に配当の教員のもとで個別に10～15分程度のカウンセリングを受けることになる。



カウンセリングに先だって、各学生の提出した課題が、語学演習室での記録処理を終えたらうえで担当教員の手に渡されている。教員はさらに全学生のプログラム進捗状況、つまり、どのコースで何マイル走ったか、全体で何マイルを走ったかといった情報をコンピュータ上で確認することができる。こうしたデータを参考にして教員がチェックするのは以下の4項目である：

- (1) 個々の学生の動機づけがうまくおこなわれているか。
- (2) 学生のSEMへの取り組み方は意欲的かどうか。つまり、順調にマイル数を積み上げているか。
- (3) 個々の学生が自己の能力に応じて、適切な課題を選択しているか。
- (4) それぞれのコースをある程度バランスよく選択しているか。

(1)の動機づけと(2)の取り組みに関しては、SEMの仕組みを理解し、自己の英語力を積極的に向上させようという意識を抱かせることが重要である。授業のほかに、新しいことに挑戦させるためには、「英語がうまくなるといいな」というような漠然とした願望に、「こうしたらどんどん向上するはずだ」という指針を示し、課題を提示して、やる気を起こさせ、「英語漬け」の状態を自ら作り出すことが究極の目的となる。(3)の課題の選択に関しては、グレードのつけられた課題の中から、学生が自分の能力に合ったものを選択しているか、特に、グレードの高い課題にはマイル数が多くつけられているので、難しすぎるものを選択して学習の効果があがっていないような状態に陥っていないかを注意することが必要である。(4)の各コースのバランスについては、特定の好みのコースのみを学習し、苦手なコースを避ける傾向のある学生に、ある程度バランスのとれた学習をすすめている。このような場合には、次回のカウンセリングまでに特定のコースの具体的な目標を決めて、実行させるように指導することもある。これは、プログラムを通して、ある技能についての苦手意識をできるだけ軽減させようとする意図による指導である。

これまでの実践を通じて、カウンセリングにあたって教員が最も注意しなければならないことは、意欲的な取り組みには賛辞を惜しまず、足りないところには激励のこぼかけ、決して学生にやる気を失わせないことであると言える。

#### 4. 3. 教員の指導体制

英語担当教員（カウンセラー兼任）の5名は、1～2ヶ月ごとに約2週間をカウンセリングに割いている。この期間には、担当者の研究室前にカウンセリング予約表がはりだされ、個々の学生が、空き時間などを利用して都合のよい時間帯を選んで、予約をする。教員側の授業、会議、研修等による時間の制約は多いが、この期間は学生の予約希望に添うように、できる限りの時間の調整を行っている。

カウンセリングのほか、担当教員は月に1度のペースでSEMについてのミーティングを開いている。そこでは、各カウンセリンググループの学生の進捗状況についての情報交換のほか、プログラムの評価・改善（新規コースの設置や現行コースの内容見直し、教材購入ほか）についての話し合いがなされる。このミーティングを通して、各担当の学生だけでなく学科全体の学生についてのSEMの進捗状況のほか、英語力の変化、英語学習以外の個人情報などをおおまかに知ることができている。

## 5. 終わりに

以上が本学で開発中の自学自習プログラムSEMの概要である。このプログラムはスタートから2年、ようやく形式が整った段階である。今後は、各学生の学習履歴と英語力の伸長などに関する実証的なデータを収集・解析の上、このプログラムが各学生の英語力伸長にどのように寄与するのかを研究していく予定である。

本学の場合は、ハード面、ソフト面でのかなり思い切った設備投資を行うことができたため、このような大がかりなプログラムを開発することができた。その点では、一般的な中学・高校・大学では本学と同様のプログラムを導入することは無理かもしれない。しかし、今後研究が進められるであろう本プログラムの効果測定の結果をもとに、プログラムの一部を流用するといったことができれば、多くの教育現場でのよりよい英語教育の助けになるものと考えている。

## 注

- 1) たとえば雑誌『現代英語教育』（研究社出版）1996年5月号の記事「英語教育なんでも探偵団」では、中学・高校で学習者が教科書を通じて触れる英文の量はペーパーバックに換算して80ページ少々に過ぎないとの報告がされている。そのほか、英語教育における「量」の問題については、前掲誌1996年8月号の特集記事「英語授業『量』への挑戦」や、特に多読に関しては、同誌1993年7月号の特集記事「英語をたくさん読ませたい」および1994年7月号の特集記事「多読プログラムのすすめ」などにまとめられている。
- 2) 英語の多読プログラムの効果測定については金谷ほか（1991, 1992, 1994, 1995）の一連の研究が実証的なデータを提供してくれている。
- 3) 本プログラムは、国際文化学科の1年生が通年で行うほか、同学科の2年生の一部（英語科目を主に選択している学生）が前年度に引き続き利用している。しかし、現段階では1年生を対象とした通年プログラムの充実・完成に力点を置いているため、2年間を通しての計画にまでは手がまわっていない。この点については、今後、充実させていく必要がある。
- 4) 使用教材をはじめとしたプログラムの詳細についてはインターネット上に下記のURLで公開している：<http://www.n-seiryu.ac.jp/SEM/index.html>  
語学演習室について、もう一点、人的サポートがあることを述べておく。語学演習室にはパートタイムの助手が1名つき、教材の管理やコンピュータの使用法の説明のほか、学生が提出したレポートの整理・データ入力などの事務処理にあたっている。
- 5) 学生は、入学直後の学科オリエンテーション期間に行われた筆記試験（過去の英検（STEP）2級問題を利用）と外国人教員によるインタビューの成績から、5つのカウンセリンググループに分けられた。グループ分けの基準は表1のとおりである：

表1：学生のグループ分け成績基準

英検リーディングパート	15%
英検リスニングパート	25%
インタビュー Grammar	20%
インタビュー Fluency	30%
インタビュー Pronunciation	10%

この基準ではリスニングおよびインタビューの配分が高いが、これは、5つのカウンセリンググループのうち上位の2グループのカウンセラーとして外国人教師をあてるためである。外国人教師は日本語も堪能であるが、この上位グループでは、カウンセリング自体を英語で行い、学生のやる気を起こさせるとともに、リスニング・スピーキングのトレーニングを行うことをねらった。結果としては、教員側が期待するほど動機づけやスピーキングのトレーニングとして効果があったかについては疑問が残るが、リスニングのトレーニングにはなったという印象を受けた。

## 参 考 文 献

- Hatori, Hiroyoshi, Kaichi Itoh, Ken Kanatani and Tetsuyu Noda. 1990. *Effectiveness and Limitations of Instructional Intervention by the Teacher -Writing Tasks in EFL-*. Tokyo: The Ministry of Education.
- Kanatani, Ken, Kaichi Itoh, Tetsuyu Noda, Yukio Tono and Namio Katayama. 1993. *The Role of Teacher Feedback in EFL Writing Instruction*. Tokyo: The Ministry of Education.
- 金谷 憲、長田雅子、木村哲夫、薬袋洋子. 1991. 「高校における多読プログラム—その成果と可能性—」『関東甲信越英語教育学会研究紀要』第5号, 19-26.
- \_\_\_\_\_. 1992. 「英語多読プログラム—その読解力、学習方法への影響—」『関東甲信越英語教育学会研究紀要』第6号, 1-10.
- \_\_\_\_\_. 1994. 「中学生英語多読プログラム—その動機づけと読解力への影響—」『関東甲信越英語教育学会研究紀要』第8号, 39-47.
- \_\_\_\_\_. 1995. 「英語多読の長期的効果—中学生と高校生プログラムの比較—」『関東甲信越英語教育学会研究紀要』第9号, 21-27.

参考資料

1. レポートシートサンプル

リーディングコース用


リスニングコース用

READING COURSE SELF-STUDYING REPORT				LISTENING COURSE SELF-STUDYING REPORT			
Student #	Name:	Group: C · K · N · S · T		Student #	Name:	Group: C · K · N · S · T	
BOOK or CD #	File	DATE	TIME	PROGRAM #	DATE	TIME	SCORE: /
TITLE:				TITLE:			
SUMMARY				ANSWERS			
EVALUATION				SUMMARY OR COMMENT			
EVALUATION				EVALUATION			
· Was the book interesting or boring? INTERESTING  -----  BORING				· Was the story interesting or boring? INTERESTING  -----  BORING			
· Was the book easy or difficult? EASY  -----  DIFFICULT				· Were the questions easy or difficult? EASY  -----  DIFFICULT			
· How much did you use your dictionary? NEVER  -----  OFTEN				· How much did you use your dictionary? NEVER  -----  OFTEN			
· Could you understand the introductions for the first time? Yes / No				· Could you understand the introductions for the first time? Yes / No			
· How many times did you listen to the introductions?				· How many times did you listen to the introductions?			
· Could you understand the introductions without the program sheet? Yes / No				· Could you understand the introductions without the program sheet? Yes / No			
· How many times did you try to repeat the introduction after the tape?				· How many times did you try to repeat the introduction after the tape?			
· And could you repeat it completely? Yes / No				· And could you repeat it completely? Yes / No			
· Could you understand the acts for the first time? Yes / No				· Could you understand the acts for the first time? Yes / No			
· How many times did you listen to the acts?				· How many times did you listen to the acts?			

2. タスクシートサンプル

リスニングコース用

ライティングコース用

SEM Listening Course PROGRAM 1 "Happy Birthday"	No. 14
<p><b>VOCABULARY</b> Do you know the meaning of these words from program 1?  <i>favorite</i>  <i>convention</i></p> <p><b>INTRODUCTION TO ACT I</b>                      Welcome to TUNING IN THE U.S.A. Today we're in Rivendale, New York, at the home of the Stewart family. The Stewarts are having a birthday party for Richard, one of the three Stewart children. Today is Richard's thirtieth birthday. Richard's mother Ellen, his wife Marilyn, and his brother Robbie are all there. His grandfather is there, too. There is a cake. There is singing. And there are presents, including an unusual present from Richard's grandfather.</p> <p><b>INTRODUCTION TO ACT II</b>                      This time on TUNING IN THE U.S.A., we join the Stewart family again at Richard's thirtieth birthday party. In our last story, Grandpa Stewart gave Richard the gift of a harmonica. And as this story begins, Grandpa is teaching Richard to play it. During the party, another member of the family calls from Chicago. And after the phone call, Richard's wife Marilyn gives him another special present.</p> <p style="text-align: center;"><b>QUESTIONS</b></p> <p><b>A. Which members of the Stewart family might say these sentences?</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Thanks a lot for your gift.</li> <li>2. I love to bake cakes.</li> <li>3. My husband works at a hospital.</li> <li>4. I'm seventy-two years old.</li> <li>5. I had a hard day at the hospital.</li> <li>6. Today is my brother's thirtieth birthday.</li> </ol> <p><b>B. Who plays the piano in the Stewart family?</b></p> <p><b>C. Is Richard's trip completely planned?</b></p> <p><b>D. Is Susan older or younger than Richard?</b></p> <p><b>E. Is Susan spending the entire weekend in Chicago?</b></p> <p><b>F. Is Marilyn going on the trip with her husband?</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>&lt;I Hate to Eat Lemons!&gt;</b></p> <p>食べ物の好き嫌いは良くないとわかっていても、どうしても食べられないものがありますよね。あなたの食べられないものは何ですか。今回はあなたの嫌いな食べ物について書いてください。でも、ただ「私は○○が嫌いです」って書くだけではダメですよ。どうしてそれがダメなのか、何かきっかけがあってダメになったのか、もしそれを食べたらどんなことになるのか、などなどを読んだ人が納得するくらいに、詳しく書いてください。</p> <p style="text-align: center;"><b>&lt;Sample Essay&gt;</b></p> <p>I hate to eat sour food such as lemons, oranges, <i>ume-boshi</i> and so on. I hate the smell and taste of them. Now I'm so sensitive to sour food that I can even smell them even when somebody else is eating them on my back.</p> <p>I don't know when I started to hate those food, but I haven't had those food for many years. Actually when I was a kid, I used to eat many oranges. Maybe I ate too many oranges in my childhood and somehow I got sick of them.</p> <p>I know lemons and oranges are very good for your health, but still I can't eat them. Whenever I try to eat lemons or oranges, I have a hard time. When I put a slice of lemon in my mouth, I can't open my eyes. When I try to chew it, tears come down from my eyes. I'm sure it's very very funny to see me eating a slice of lemon, crying with my eyes closed tight, but it's not a laughing matter with me.</p> <div style="text-align: center;">  </div>